

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 志野		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居者様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。  
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。  
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便り、個人へのお手紙と全入居者様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。今後はホームのブログや取り組み実践研究内容等をHPにて公開し、居宅介護支援事業所等に対してもメールマガジンの配信を行う予定です。  
 近所の川沿いには毎年春になると桜の木が満開になる、夏には花火大会が敷地内から観られる等、季節に合わせた外出の楽しみがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川を臨む庭では季節の花や野菜を植え、収穫作業や採れた野菜が食卓に上がることが楽しみの一つになっている。洗濯物を干したり、川を眺めながらのお茶会やレクリエーションは、コロナ感染症などによる外出が制限される中、気分転換や家庭らしい日常生活を感じる場となっている。建物は平屋のホームで、ユニット間の行き来がやすく、職員の協力関係のみならず、ユニットを越えた利用者同士の交流がある。  
 産休明けの職員が、子どもを連れて出勤できるように配慮している。幼い子どもの存在は、子育てをしていた昔を思い出すきっかけとなり、子どもをあやしたり、ベビーカーを押して歩いたり、利用者同士の関係を和ませ、利用者の笑顔を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。	法人の価値基準体系が書かれた冊子を配布し、新入職員にも浸透するように指導している。毎日の唱和や、どの研修資料にも理念を明記することで意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナやインフルエンザ等の影響も未だあり、来設して頂く回数は減ったが入居者様の散歩を通して地域の人々へ挨拶を行っている。今後は情勢を見極めながら認知症カフェに参加する等、地域との関りを増やしていく。	近所への散歩や、大家さんを通して地域住民との交流がある。地域の祭りなど徐々に行事が再開されつつあり、感染症の状況等を見ながら参加することを検討している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている。また、参加者の方から地域の情報を活かして外出支援等に役立てている。	7月から対面開催を再開した。民生委員や長寿会、市役所高齢介護課の担当者、家族の参加がある。ホームの報告が中心であるが、地域の状況や行政の施策、家族の意見交換が行われている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れたり、メールや電話等で連絡をしている。	行政からの研修の案内や情報提供は、主にメールにより把握している。ホームの運営や利用者についての相談は、担当課を訪問したり電話で行い、関係づくりに努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。	身体拘束廃止と虐待防止を目的として不適切ケアチェックシートを用い、職員同士が観察、評価し、それをもとに不適切ケアについて話し合うことで理解を深めている。不適切な言葉遣いや関りにはその場で注意し、改善を図っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の不適切ケア・虐待のチェック、職員同士で援助方法の確認をしている。	事例を用いたロールプレイングを行い体験することで、支援に繋げる研修を繰返し行う。何が、何故いけないのか、不適切ケアによりどう感じ、思うのか、我が事として捉えることで効果的に学び、日々の業務に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の間にある程度区切りをつけ、その部分の説明について不安や疑問点無いか聞くようにしている。管理者により十分だと思われる時間をとっているが、理解と納得が得られるまで説明は行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙と共にご家族からのご意見をいただく用紙を送付している。また、面会や来訪された時にご意見を賜りすぐるに実行出来るものについてはすぐに反映させている。	面会時や運営推進会議、電話で家族の意見や要望を聞いている。毎月のホームだよりとともに家族へ個別の報告書を送付して、ホームでの様子を伝えている。ホームページ上のブログ機能により情報発信を行い、送付対象でない家族などへも様子を伝える取り組みを行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議の他、日々の雑談等からも職員の意見や提案を聞いている。良い意見で管理者が承認出来るものについてはその場でokを出している。確認が必要なものについては後日改めて結果を知らせるようにしている。	会議や日常業務の関りの中で、職員から業務への提案があり、検討し業務改善や運営に活かしている。法人による年1回の職員アンケートでは、様々な意見が寄せられる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	日々の雑談等から職員の状況を確認しており、状況により個別に相談を受けたり面談をおこなっている。	勤務日や休みの希望を反映したシフト調整や、雇用形態を変更して、都合に合わせた働き方が柔軟にできる仕組みがある。法人による福利厚生制度は選択肢が多く、魅力的なメニューは職員に好評を得ている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している	キャリアパス制度や人事考課制度による定期的な個別面談の機会があり、相談や個人目標、スキルアップについて話し合っている。法人の資格取得支援制度や法定研修の年間計画、研修資料や動画配信による学習ツールがあり、職員のペースに合わせて活用できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年後半からは徐々に対面での交流の機会を増やしており、コロナ以前の状態に近づきつつある。今年は更に対面での交流が増えると思われるので、実際自身の肌で感じた事を事業所に持ち帰りサービスの質の向上に役立てる事が出来ると思う。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により、スタッフとご利用者様がお互いに協力し助け合い生活を共にしている関係性を作っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行っている、また、日常の何気ない会話の中からも小さな希望を把握して、それを介護記録やスマートフォンに記録して共有している。	日々の関りから、思いや希望を聞き逃さず汲み取っている。対応に検討が必要なことは、家族とも相談しながら希望を叶えるために取り組んでいる。申送りや個人記録を活用し、職員間の情報共有を図っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題や思いをまとめ、話し合うようにした。計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている	ユニット会議や日々の記録の中から、ケアプランの実施状況や本人の状態、課題をモニタリングし、評価している。本人、家族の思いを反映してケアプランを作成し、担当者会議で検討している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残し、いつでも情報を共有できるようにしている。	電子記録と送りノートなどの紙媒体の記録を併用している。音声入力を利用して、電子記録を苦手とする職員にも配慮し、より活用しやすい方法で情報共有を図っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われず外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。	ユニット会議や運営推進会議を活用し、利用者のニーズや課題について検討している。グループホームとして出来る範囲で、前向きにニーズに応える姿勢がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて土岐市役所高齢介護課の方、民生委員の方、長寿会の方、ご家族様のお話を聞きしています。今はスタッフとご利用者様がホームの周辺を散歩する事により顔見知りとなり、ご利用者様が楽しんで散歩が出来るようになりつつあります。今後は認知症カフェ等にも参加し地域との関りを増やしていきます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	集団往診と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けられている	1回/月の協力医の訪問診療がある。ホームから利用者の心身の状態を情報提供しており、必要に応じて指示を仰ぎ、診療を受けている。訪問看護ステーションとの契約により、日常的に健康状態について相談でき、医師との連携が図れている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている	入院後1週間を目途に医療機関に状況を確認したり、入院時にはホームでの様子を情報提供している。退院後のスムーズな受け入れのために家族、医療機関と密に連携を取り、退院に備えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている	家族には入所時に指針について説明し、希望があれば看取り介護を行っている。定期的な研修やマニュアルがあり、職員の精神的な不安に対しフォロー体制がある。協力医の助言や指導、訪問看護師の支援体制がある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、一部のスタッフは普通救命講習の研修に参加する予定です。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し災害時には協力をお願いしている。近くの嶋香寺(とうこうじ)には災害時に協力していただけるようにしている。災害用BCPを作成し、スタッフに配布したりいつでも確認できるようにしている。	訓練とともに、防災、減災に関する研修を行い、BCP(事業継続計画)は職員に周知している。認知症利用者が避難所で生活することに困難さがあると考え、ホームの近くの寺に、本堂を避難先として利用できるように協力を要請している。	災害時の地域の協力体制について、双方向的な協力体制を具体的に検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないように戸を必ずノックする。排泄の確認の声かけをする際も、ご本人様のすぐそばで確認するようにしている。	毎月のホーム会議内で法人の年間計画の研修会があり、接遇についても学ぶ機会がある。利用者が不快な思いをしないように、プライバシーや羞恥心に配慮し言葉遣いにも注意を払っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床の時間等声掛けはするが、その方のペースで行動していただいている。事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている。レクリエーション等参加の意志を確認している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時の卵を割る、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていただいている。	専門の調理担当職員が季節や行事のメニューを取り入れて献立を考え手作りしている。調理員の不在時にはお弁当などテイクアウトを取り入れ、いつもと趣向を変えた食事が好評を得ている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、食事量を調節し提供。口腔内や嚥下の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い、必要があれば援助にて口腔ケアを実行してもらっている。	毎食後、口腔ケアを行い、歯ブラシなどのケア用品の清潔保持にも努めている。週1回から希望により歯科衛生士の指導があり、必要に応じ歯科医師の訪問診療を受けることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員同士で、利用者の夜間等の排泄パターンを共有しあい、失禁が減りリハパンから布パンツに移行できる。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また好みの湯温にしたり、入浴時間の工夫や入浴剤等を利用して入浴した時の満足度を上げるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している。眠れない方にはホットミルクを提供したり、リラックス効果のあるハーブを置いたり、雨の環境音等を流す等して気持ちよく眠れるよう工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている。提携薬局の薬剤師にお願いして薬の勉強会を開催する予定です。	薬の準備から服薬までに4人の目が入り、誤薬などの服薬事故を起こさないための仕組みがある。処方薬の変更時は申送り記録で情報共有し、ファイルに薬剤情報提供書を保管しいつでも確認できるようにしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かけたりしている。カラオケが好きで通っていた方にホーム内でカラオケを楽しむ機会を設けている。	洗濯や食事の盛り付けや後片付け等、できることを一緒に行っている。編み物や裁縫の得意な利用者には繕い物を手伝ってもらったり、その人の得意なことを活かした役割がある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある。本人の食べたいものをスタッフと一緒に買い物に出かける機会がある。休日や年末年始、連休時にご家族の協力の元、ご家族様と外出や外泊する機会がある。	正月には近くの神社へ初詣に出かけた。外出機会が減っているが、ゴミ捨てや近所への散歩などで気分転換し、外気に触れてもらう機会を作っている。今後は、感染症等の状況を見ながら外出やイベントの機会を増やしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている。ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている	川を臨む庭があり、洗濯を干したり季節の花や野菜と育てている。収穫した野菜は食卓に並ぶ。居室には、本人の状態に合わせ安全に配慮した家具の配置や、使い馴染んだ化粧台や景色を眺めるための椅子など、くつろいで過ごすための工夫がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている。テラス席で土岐川の景色を独りで眺め物思いにふける方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのダンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真を付け、自分の部屋がどこなのか分かりやすくしている。イレの表示を遠くからでもわかる位置とトイレの扉の2か所につけて分かりやすくしている。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 織部		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居者様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。  
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。  
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便り、個人へのお手紙と全入居者様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。  
 今後はホームのブログや取り組み実践研究内容等をHPIにて公開し、居宅介護支援事業所等に対してもメールマガジンの配信を行う予定です。  
 近所の川沿いには毎年春になると桜の木が満開になる、夏には花火大会が敷地内から観られる等、季節に合わせた外出の楽しみがある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191800040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年1月17日

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナやインフルエンザ等の影響も未だあり、来設して頂く回数は減ったが入居者様の散歩を通して地域の人々へ挨拶を行っている。今後は情勢を見極めながら認知症カフェに参加する等、地域との関りを増やしていく。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている。また、参加者の方から地域の情報を活かして外出支援等に役立てている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れたり、メールや電話等で連絡をしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の不適切ケア・虐待のチェック、職員同士で援助方法の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の間にある程度区切りをつけ、その部分の説明について不安や疑問点無いか聞くようにしている。管理者により十分だと思われる時間をとっているが、理解と納得が得られるまで説明は行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙と共にご家族からのご意見をいただく用紙を送付している。また、面会や来訪された時にご意見を賜りすぐに実行出来るものについてはすぐに反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議の他、日々の雑談等からも職員の意見や提案を聞いている。良い意見で管理者が承認出来るものについてはその場でokを出している。確認が必要なものについては後日改めて結果を知らせるようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	日々の雑談等から職員の状況を確認しており、状況により個別に相談を受けたり面談をおこなっている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年後半からは徐々に対面での交流の機会を増やしており、コロナ以前の状態に近づきつつある。 今年は更に対面での交流が増えると思われるので、実際自身の肌で感じた事を事業所に持ち帰りサービスの質の向上に役立てる事が出来ると思う。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により、スタッフとご利用者様がお互いに協力し助け合い生活を共にしている関係性を作っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行っている、また、日常の何気ない会話の中からも小さな希望を把握して、それを介護記録やスマートフォンに記録して共有している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題や思いをまとめ、話し合うようにした。 計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残し、いつでも情報を共有できるようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われず外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて土岐市役所高齢介護課の方、民生委員の方、長寿会の方、ご家族様のお話を聞きしています。 今はスタッフとご利用者がホームの周辺を散歩する事により顔見知りとなり、ご利用者が楽しんで散歩が出来るようになりつつあります。 今後は認知症カフェ等にも参加し地域との関りを増やしていきます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	集団往診と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けられている		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、一部のスタッフは普通救命講習の研修に参加する予定です。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し災害時には協力をお願いしている。 近くの嶋香寺(とうこうじ)には災害時に協力していただけるようにしている。 災害用BCPを作成し、スタッフに配布したりいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないよう戸を必ずノックする。 排泄の確認の声かけをする際も、ご本人様のすぐそばで確認するようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床の時間等声掛けはするが、その方のペースで行動していただいている。 事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている レクリエーション等参加の意志を確認している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時の卵を割る、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていたいでいる		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、食事量を調節し提供。 口腔内や嚥下の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い、必要があれば援助にて口腔ケアを実行してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員同士で、利用者の夜間等の排泄パターンを共有しあい、失禁が減りリハパンから布パンツに移行できる		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また好みの湯温にしたり、入浴時間の工夫や入浴剤等を利用し入浴した時の満足度を上げるようにしている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している。 眠れない方にはホットミルクを提供したり、リラククス効果のあるハーブを置いたり、雨の環境音等を流す等して気持ちよく眠れるよう工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている。 提携薬局の薬剤師にお願いして薬の勉強会を開催する予定です。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かけたりしている。 カラオケが好きで通っていた方にホーム内でカラオケを楽しむ機会を設けている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある。 本人の食べたいものをスタッフと一緒に買い物に出かける機会がある。 休日や年末年始、連休時にご家族の協力の元、ご家族様と外出や外泊をする機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることのできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている テラス席で土岐川の景色を独りで眺め物思いにふける方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのタンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真を付け、自分の部屋がどこなのか分かりやすくしている。トイレの表示を遠くからでもわかる位置とトイレの扉の2か所につけて分かりやすくしている。		